

設立 30 周年記念 ビオトープフォーラム in 静岡 2023

－ 自然との共生を目指して…そして豊かな未来のために－

実施報告書

日時： 2023（令和 5）年 6 月 23 日（金） 13：00～18：00

場所： 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」2階大会議室（静岡県静岡市駿河区馬淵 1-17-1）

主催： 特定非営利活動法人日本ビオトープ協会

後援： 環境省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、静岡県、静岡市、
自然環境復元学会、公益社団法人 静岡県造園緑化協会〈順不同〉

※公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会助成事業

◆フォーラム参加者 計 103 名

| | | | | | | | | |
|------------|----|---|--------|----|---|--------------|----|---|
| 官庁、共催・後援関係 | 12 | 名 | 環境団体関係 | 6 | 名 | 協会員・BA※ | 55 | 名 |
| 学生・学校関係者 | 5 | 名 | 一般 | 25 | 名 | ※ビオトープアドバイザー | | |

◇総括

創立 30 周年を記念する本年度のフォーラムのテーマは、「自然との共生を目指して…そして豊かな未来のために」として開催いたしました。静岡県男女共同参画センター「あざれあ」を会場に、協会設立の地である静岡で、充実した内容で盛会裏に開催することができました。

フォーラムの司会進行は砂押一成理事が務め、開会にあたり、鈴木元弘副会長、久郷慎治新会長よりご挨拶をし、總會、フォーラムが、協会発足の地において、静岡県・静岡市始め地元諸団体等のご協力により盛大に開催できること、また、ご講演いただきます先生方に謝意を表し、協会活動における会員の協力、顧問の先生方のご指導、関係各位のご理解ご支援に感謝の言葉を述べました。

また、開催にあたり諸官庁などのご後援をいただき、ご臨席いただきましたご来賓のご三方にご祝辞を頂戴いたしました。

静岡県くらし・環境部参事、伊藤晃様より、下記のお言葉をいただきました。

本日、「ビオトープフォーラム in 静岡 2023」が、ここ静岡県において、このように盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国各地から本県にお越しいただきました皆様を心から歓迎いたします。

また、本日の主催者であります、特定非営利活動法人日本ビオトープ協会におかれましては、平成 5 年の設立から 30 周年を迎え、これまで、永きにわたり、ヒトと自然との共生を目指し、多様な生物の生息空間であるビオトープの保全、復元、創出に取り組まれております。こうした活動の必要性を社会に認知させた功績は非常に大きく、深く敬意を表する次第であります。

さて、昨年 12 月にカナダで開催された COP15 の会議では、2030 年までに世界の生物多様性を保全する目標が採択され、その中では「2030 年までに陸域・海域の 30%以上を保全する」いわゆる 30by30 が盛り込まれました。この 30by30 の目標の達成の鍵になるのが、国立公園等のように既に法的に設定される保護地域とともに、新たに民間でも保全に取り組んでいくことが重要です。環境省ではビオトープなどの豊かな自然を保全している地域を「OECM」として認定していくことを進めており、まさに、この会の取組が今後の生物多様性の根幹になるものと考えております。

このような中、本県では、生物多様性の保全に関する基本的な考え方や関連施策の方向性を示す「ふじのくに生物多様性地域戦略」を、社会情勢の変化や国における新たな戦略の策定状況を踏まえて、昨年度末に、改訂したところです。

今後も、生物多様性の保全を推進していくにあたり、生態系の維持や、自然との共生に対する貴会の高い理念を参考に、広く県民の皆様の参加をいただき進めてまいりたいと考えております。

結びに、本フォーラムの開催に御尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝いたしますとともに、フォーラムの御成功はもとより、貴会のますますの御発展と本日御出席の皆様の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

静岡市都市局都市計画部参与兼緑地政策課長、塩澤友宏様からのご祝辞では、1974 年、巴川流域の豪雨被害を契機に造成された「あさはた遊水地」整備に触れ、治水工事で絶滅危惧植物などの埋土種子から再生した貴重な湿生植物や、魚類、野鳥など豊かな環境が作られて「日本の重要湿地 500」に指定されたことを事例に、市として積極的な自然再生の取り組みについてお話があり、協会への期待が述べられました。

自然環境復元学会・会長、東北学院大学地域総合学部地域コミュニティ学科・教授、平吹喜彦先生からは、自然環境復元学会への協会の支援について謝意を述べられ、今日までの協会活動を評価いただきました。大量な天然資源や化石エネルギー消費前提での豊かさが、地球環境を危機的にしていることに触れられ、真摯で粘り強い行動が必須であると述べられ、フォーラムを契機に「自然と共生する人、社会、未来の実現」に向けた新たな門出となることを祈念するとのお言葉をいただきました。

第1部では、設立30周年を記念し、功労者表彰式を行いました。協会設立以来協会顧問として多大なお力添えをいただいた代表顧問の鈴木邦雄先生、協会設立を主導された杉山恵一先生奥様の杉山美智子様、協会設立以来役員として協会運営に携わり第二代会長、会長退任後も相談役理事として貢献している西川勝相談役に登壇いただき、久郷会長より感謝状が手渡されました。代表して、西川相談役が謝辞を述べました。

第2部では、「第15回ビオトープ顕彰」表彰式が行われ、ビオトープ顕彰事務局長の野澤日出夫理事からの審査報告と、表彰状授与が行われました。引き続き事例発表が行われ、「どじょりんのビオトープ」「ビオトープ富士」2件のそれぞれの地域性を生かした素晴らしい活動事例が紹介されました。
(発表資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載、
顕彰講評・受賞紹介：協会WEBページにUP、協会誌52号(2023年8月発行)に掲載予定)

第3部は、協会代表顧問の鈴木邦雄先生より、「ビオトープが未来を拓く-30年のビオトープ活動から-」と題して基調講演をいただきました。協会設立当初から顧問としてご指導いただいていた30年を振り返り、設立当時「自然保護か地域開発か」の時代に自然環境復元研究会の想いを具現化する部隊として、協会誌の創刊、海外先進地視察、などを通じて会員のビオトープの認識の共有をはかり、今日全国各地でのビオトープ活動の推進役としての「ビオトープアドバイザー養成研修」につながっていること、東日本大震災の環境影響への対応についても、ビオトープの視点で各地での活動が続けられたことや、地球環境時代のグリーン・アライアンスについて、企業の環境貢献(社会貢献・社員の福利厚生・意識向上・本業への波及効果)・行政(地域活性化・雇用促進)・市民(環境意識向上・地域への愛着・行政企業との連携)パートナーシップで環境貢献(地球環境貢献・生物多様性維持・里山復権・日本文化再構築)、これらの歯車を回すことなど、これからの協会活動に於いて多くの示唆をいただきました。

特別講演1は、協会特任顧問の山田辰美先生より、「SDGs・生態圏におけるビオトープの重要性」と題してご講演をいただきました。特にSDGsの根幹である生態圏の維持保全において、ビオトープの重要性をSDGsの背景・意識の変化として解りやすい事例で紹介され、企業や市民参加の自然環境再生手法について具体的な多くの実例を示してお話いただき、環境省の30by30ロードマップにおいて、ビオトープ協会の果たす役割についてご示唆いただきました。

特別講演2として、日本在来種みつばちの会理事の藤原愛弓先生より「在来種ニホンミツバチとその養蜂を支える自然環境-里山地域の事例から-」と題してご講演いただきました。日本で主に蜂蜜生産などのために飼育されるのは、殆どが家畜種のセイヨウミツバチである中で、在来種ニホンミツバチの生態や、その受粉を通じた地域の自然への多大な貢献など、長年の研究に基づいた大変興味深いお話をいただきました。ニホンミツバチなどの野生送粉者たちのポリネーションにおける貢献度を金額計算すると、経済価値は3300億円となること、特に「ミツバチの生活は植物(蜜・花粉)によって支えられ、ミツバチは、植物の繁殖、野生生物の生活、私たちの生活を支える」という言葉は印象に残りました。
(講演資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載)

閉会の辞は、野澤理事よりフォーラム参加者と関係者への謝意が述べられ閉会しました。

この30周年ビオトープフォーラムを通じて、改めて私たち協会活動の社会での位置づけについて考え、生物多様性、持続可能な自然環境の創出、そして人との共生を目指して、地域住民、産業界、行政、研究者など多様なパートナーとの連携で力強い活動を推進して行きたいと願っております。

—別紙レジュメ資料集の通り、盛会にて終了いたしました—

<後日、編集した映像を一部オンライン配信する予定。詳細は協会WEBページにUPいたします>

2023年7月吉日



フォーラム会場内で、協会本部、各地区活動、SDGsについてのパネル展示も開催いたしました。



「ビオトープフォーラム in 静岡 2023」の様子



ご祝辞



新会長挨拶



司会



功労者表彰



特別講演



閉会の辞



基調講演



※顕彰表彰式の写真は、別紙、第15回顕彰講評・受賞紹介をご覧ください。

フォーラム2日目見学先の様子

